

自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業

報 告 書

国立赤城青少年交流の家では、10月7日（土）～10月9日（月）の2泊3日の日程で、教育事業「自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成事業」を開催しました。この事業は、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者を育成するものです。参加者は、国公立青少年教育施設職員、大学職員、地域のNPOや企業などの体験活動実施団体、大学生など合計18名が参加しました。

初めに、主任講師からNEALリーダー講習が、「これから指導者を目指そうとする人」を対象としていることが確認されました。そして、「この講習は入門者向けであること」「内容はベーシックなものであること」「ボランティア養成と並行して行うこと」の3点が説明されました。また、講習終了時には全員がNEALリーダーとして指導できる知識とスキルを身に付けられることが説明されました。

【1日目】ねらい：自然体験活動のそもそもについて理解する日

ガイダンスにおいて、「自然体験活動指導者とは」「指導者養成制度の全容と経緯」についての解説がありました。講義では「青少年教育における体験活動」「ボランティア活動の意義」「自然体験活動の技術」「対象者理解」について学びました。ボランティア活動をすることにより、子供たちの活動の指導や支援だけにとどまらず、多様なボランティア活動を通じて子供たちの豊かな教育環境づくりの推進にも大きく貢献することができること。体験活動では、「何を体験させる」のかではなく、「どう体験させる」のかが重要であること。対象者理解では、一般的理解と個別的理解の違いや必要性を学んだり、ディスカッション形式で話し合ったりすることで、より理解が深まりました。



「ボランティア活動の意義」
子どもの個人情報の扱いについて
学んでいます。



「対象者理解」
対象者理解のないキャンプについての
リスクを考えています。

【2日目】ねらい：自然体験活動（主に技術）の基本を理解する日

「自然体験活動の特質」では、「見方を変える」ことを意識し、当たり前にある自然が体験アクティビティの素材となることを学びました。「自然体験活動の指導」では、指導者として人の前に立つときの心構えや倫理観を、群馬県内の小中学生が対象の尾瀬学校という環境学習を例にして学びました。具体的には、対象者・目的により伝え方が変わってくること、体験活動の内容で対応の仕方も変わることを、指導者として継続的な自己研修が必要なことなどを学びました。



「森」から連想される言葉を書き出して、グループ内でシェアしているところです。



自然のたからもの探しをしているところです。

【3日目】

ねらい：自然体験活動の全容を理解し、これからの指導者としての一步を踏み出す日

「自然体験活動の安全管理」では、心構えやリスクマネジメントについて、エクササイズで意見を交わしながら学びました。



最後の講義「自然体験活動の安全管理」の講師紹介をしているところです。



心肺蘇生法を学んでいるところです。受講者みんな真剣です。

アンケートの内容をまとめると

「講習を聞きながら、今後やりたいことがたくさん思い浮かび、心に火が灯りました。」
「今までの勤務（施設職員として）で知っていることもありましたが、改めて深く考えさせられる点も多く、とても参考になりました。リスクマネジメントの点では、再度施設を見直していきたい。」

といった感想がありました。

担当：企画指導専門職 小倉 祐司